

WUB 呉屋会長・ロバート仲宗根氏との懇談会



今年8月下旬から9月上旬にかけてハワイにおいて開催される第1回世界のウチナーンチュ会議、第7回WUB（ワールド・ウチナーンチュ・ビジネスアソシエーション）世界大会のプロモーションのため、WUBインターナショナル呉屋守将会長、同事務局長・奥平太一さん、WUB創設者・ロバート仲宗根ハワイWUB会長の三人がロサンゼルスを訪れ、ガーデナ市の中国レストランで関係者40人と4月22日に懇親会を持った。一行は南米ブラジル、ペルー、アルゼンチンの三国を廻ってロスに立ち寄ったものである。

北米WUB会長・多和田真友さんが司会を担当し、呉屋さんは「稲嶺沖縄県知事、伊良皆県議会議長なども参列されるので、北米からも大勢の方々の参加を期待したい」、仲宗根さんは「世界のウチナーンチュに沖縄文化を共有し、アイデンティティー（同一性の認識）の確認をしてもらうため、国際エイサー祭、沖縄祭等沢山のイベントを用意して待っています」、奥平さんは「若い目で見た世界を将来の沖縄の発展に尽くすことができたらと思う」、WUB北米会員の外間牧師は「現在ロスにてベター・リビング・センターを経営、五カ国からの学生の面倒を見ているがWUBの今後の遣り方次第では素晴らしい組織になると、自分は期待している」、北米県人会比嘉朝儀会長は「結の心を大切に、歴史に残る会議にして欲しい」、エドワード・玉栄正一（89）元県人会長は「ハワイには三人の妹と親類達が住んでいるので参加できれば、初めての会議の成功を祈る」、ロスの日本語放送テレビUTB尼野社長は「ナンシー・仲谷夏子さんの好意で一週間沖縄紹介の撮影をしてきた。沖縄の人達の心の暖かさに触れた。将来引退したら、沖縄かハワイに住みたい」、とそれぞれの想いを語った。その後質疑応答があり、皆で記念撮影をした。

当銘貞夫

写真は中華レストランにて記念撮影。